

## 秋焼き～火入れ

1. 実施日時 平成30年9月23日（日） 9：00～20：00
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白地内（ダムに見える牧場林地）
3. 参加者数 火入れ従事者15名（奥出雲町、雲南市、松江市、大田市、鳥取県日原町、福岡県福岡市／島根大学学生・教員ならびにOB）／調査者1名 ※総16名

4. 概要 10時50分着火、19時50分延焼終了、21時00分鎮火。  
快晴、気温28℃、湿度不明、北西の風0～1m（着火時）。  
火入れ面積約1アール。

連日の降雨により、土壌、竹材ともに含水率が非常に高く、燃え広がることはなく、人力で材を動かしながら斜面上部を中心に火入れ。

今回予定面積の2割程度を燃やし、残りは次年度へ持ち越しの予定。

5. 今後の予定

- 播種と作物の生育状況調査、間引き

カブを火入れ地に、防火帯へヒユ科の菜ものを播種する。

- 火の入らなかった箇所へ来年春以降火入れするための整備。

- 春焼き地の作物について、収穫・乾燥・脱穀・調整など。

- アワ、地カブなどの在来作物調査ならびに伝統食文化調査。

- 次年度以降の計画、調査。

6. 状況写真

▼エンジンポンプ動作確認、人員配置確認後、風上山手より着火。



▼人力で材を動かしながら火を下げ下ろし、9時間で計画の約2割弱までの面積を実施。



## 7. その他（経過と要検証事項等）

### ●高含水率下での火入れについて

夏の火入れはこれまで8月上旬と下旬に実施してきた。今年は整備の遅れもあって9月下旬の秋焼きとなった。2週間あまりの長雨が続き、降雨から1日半をおいての火入れとなった。

燃えないことを前提として、どの程度燃えるのかを試す機会ととらえた。

・想像以上でも以下でもない想定どおりの燃え方となった。すなわち、人力で材を動かし続けない限りは延焼に至らない。

・同じ条件であれば斜面のほうが燃えやすい（風の入り方による）。裾部の積材量大（腰高程度）の箇所についても窪地では燃えにくくなる。

・風がほとんどなかったことも難燃に影響したと思われる。

### ●土質と日照について

夏コナラ、ノグルミ、クヌギがまじった竹林であったため、腐葉土の厚みがある土質である。日照条件も含めて2016年夏の火入れ地とよく似ている。播種時期が遅れ、期待はできないものの、カブには適していると思われる。防火帯部分との対照も含め、交雑のないヒユ科の菜ものを播種することで、試してみる。

### ●時間経過

8:00 先発着・準備開始

8:30 参加受付開始

9:20 松江先発部隊到着

9:30 ミーティング後、準備開始、後発隊10時着

10:35 火入れ式（風0m…火入れ局地／気温27℃／晴れ／湿度不明）

10:50 着火（人員配置：点火部3、上部4、ポンプ2×1、飛び火監視5等）  
火勢がつかないため、人員を材の積み増しと移動に投入。

12:15 材の移動投入は継続。上辺側部に着火するも火勢なくまもなく鎮火したため、材を積み増しするなど手当をつづける。

15:00 中締めとし、3名は退去。

17:00 燃焼をとめるための火切り線をつくる（燃焼方向にある材をどかす）

19:20 熾火状態となったため、解散。

21:10 火入責任者現場最終確認、退去

---

†. 平成30年度竹の焼畑事業は「竹の焼畑2018」と呼称。奥出雲山村塾、島根大学里山管理研究会、森と畑と牛と、ダムの見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。